

## はじめに

平成 27 年度から平成 29 年度にわたる 3 年間の大学院総合科学研究科・総合科学部の教育研究並びに管理運営業務に関する自己点検・評価実施報告書を、ここに公表します。

大学院総合科学研究科・総合科学部では、広島大学の第二期及び第三期中期目標・中期計画に基づいて、教育・研究活動、及び管理運営等の自己点検（PDCA サイクル）を継続して行っており、今回も前回報告書（平成 24 年度～平成 26 年度）に引き続き、3 年間の諸活動を対象として現状の説明とその根拠資料、自己評価、今後の方針等の様式で自己点検評価実施報告書を作成しました。

本研究科・学部は、この 3 年間に様々な活動を行ってきましたが、特筆すべきは、平成 25 年度から導入した「総合科学プログラム」の卒業生を送り出すことができたことです。それまでの 10 プログラム制から大幅な変更を行い、学際性・総合性への社会的ニーズに一層応えるため、また、学生のニーズに応じて柔軟にカリキュラムを構築できるように、人間・自然・社会の 3 つの教育領域、12 の授業科目群から構成される総合科学プログラムを開始しました。e-ポートフォリオを活用して、学生の主体性や興味・関心を尊重し、学問的サポートを行うという指導体制の成果を問うこととなります。さらには、平成 30 年度から国際共創学科を設置することとなり、その準備を行った時期に当たります。これまでの総合科学部の資源・蓄積を活かし、国際的活躍のできる学生を育成するための英語によるプログラムで、総合科学部の新たな展開が始まります。国際共創学科と総合科学科の相乗効果により本学部の今後の飛躍が期待されるところです。大学院では、21 世紀科学プロジェクトや学生独自プロジェクトをはじめ、総合科学研究科ならではの特徴ある教育研究活動を行ってきました。設置されて 10 年を経過したことから現状分析をもとにその成果を問い、今後活かしていきたいと考えています。

広島大学総合科学部は、学際・総合・創造性の旗印を掲げて 1974 年に創設され、学際的な学部教育を 40 年以上実施してきました。この実績を土台に、2006 年（平成 18 年）には大学院総合科学研究科を設置し、21 世紀社会が直面する複合的諸課題に取り組み、学際的・文理融合型の教育研究を推進してきました。本報告書が、本研究科・学部の今後の教育研究活動の改善に役立つことを期待しています。

本報告書作成にあたってご尽力いただきました関係各位、研究科評価委員会の方々、事務職員の方々に厚く謝意を表します。

平成 31 年 3 月

広島大学大学院総合科学研究科長  
岩永 誠